

令和 4 年 3 月

松本和久 学位論文審査要旨

主 査 難 波 範 行
副主査 山 本 一 博
同 加 藤 雅 彦

主論文

Hyperthyroidism in Graves disease causes sleep disorders related to sympathetic hypertonia

(バセドウ病における甲状腺機能亢進症は交感神経活性に関連した睡眠障害をきたす)

(著者：松本和久、伊澤正一郎、深谷健二、松田枝里子、藤山美里、松澤和彦、大倉毅、加藤雅彦、谷口晋一、山本一博)

令和4年 The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism

doi: 10.1210/clinem/dgac013

参考論文

1. Low signal intensities of MRI T1 mapping predict refractory diplopia in Graves' ophthalmopathy

(バセドウ病眼症におけるMRI T1マッピングの低信号強度による難治性複視の予測)

(著者：松澤和彦、伊澤正一郎、加藤亜結美、深谷健二、松本和久、大倉毅、宮崎大、黒崎雅道、藤井進也、谷口晋一、加藤雅彦、山本一博)

令和2年 Clinical Endocrinology 92巻 536頁～544頁

審査結果の要旨

本研究はバセドウ病(GD)患者における睡眠障害の特徴と機序を解明するため、未治療のGD患者(HT群)、甲状腺機能正常のGD患者(NF群)、健常者(CR群)に対し、ピッツバーグ睡眠質問票(PSQI)と脈拍、尿中総メタネフリン(U-MNs)による交感神経活性の指標を用いて3群の横断的かつHT群の治療前後の前向き検討を行った。その結果、HT群で他の2群と比べPSQI総得点と脈拍、U-MNsが高値であった。重回帰分析で遊離T4は他の因子と独立しPSQIと有意な正の相関を認めた。HT群の治療前後比較では甲状腺機能正常化に伴い、脈拍、U-MNsとPSQI総得点、睡眠の質、睡眠困難の有意な改善を認めた。本論文の内容は、GDにおける甲状腺機能亢進症が交感神経活性化を介して睡眠障害をきたすことを証明し、今後新たな治療指針策定への貢献が期待されることを示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。